



JAISTを巣立った修了生は、それぞれのフィールドで活躍しています。構造計画研究所ネットワーク技術部に籍を置く浅沼雅行さんは、災害時などに威力を発揮する次世代の通信ネットワークの開発を手掛けています。学部生時代から防災に関わる仕事を志してきた浅沼さんは、JAISTで学んだことと現在の仕事の関係について、充実した表情で語っていただきました。

JAIST同窓会・修了生レポート

未知の分野で成長させてくれた 母校に感謝

JAISTの大学案内が 示した新たな道

僕が所属する部署で開発しているのは、無線と有線による通信をシームレスでつなげる次世代のネットワークシステムです。まだ

まだ研究段階ですが、実現すれば、災害によって電話線が破損したり、無線基地局が使えなくなったときでも、別の経路から迅速に通信を復旧して、被災地と円滑に情報をやり取りすることが可能になります。

災害時における通信システムの研究は、僕がJAISTに在学していたころから、一貫して携わってきたテーマです。もともと防災に対して強い関心があり、関西大学の建築学科に入学して、建築物の設計における災害対策などを学んできました。そのまま、大学院にも進みたかったのですが、経済的な事情もあって断念し、研究生を経て一度は大阪の大手設計事務所就職します。しかし、なぜか設計の仕事ではなく、系列の学習

塾で講師をすることになってしまい、「話が違うなあ」と首を傾げながら、数ヶ月ほど小中学生を相手に勉強を教えたものでした。

JAISTの存在を知ったのは、ちょうどそのころです。大学の時代の友人のもとを訪ねた際、彼の部屋でJAISTの大学案内を見つけました。そこで、知識科学研究科の林幸雄准教授が災害に強い通信技術の研究を手掛けているらしいことを知ったのです。消防関係に進んだ別の友人から、「これからの防災は通信手段の確保が重要になる」という話を聞いていたので、「建築とはまったく別の分野だけど、ぜひこの先生について学びたい」との気持ちが強くなり、二〇〇五年にJAISTの門をくぐることになりました。

防災で社会に貢献する プロへと成長したい

企業出身の林先生は、社会で通用する研究者や技術者を育てたいとの思いから、学生の僕たちを時

に厳しく、親身になって指導してくださいました。僕自身は「石川県に大地震が起きて通信が止まった場合、移動中継局をどこに配置すれば効果的か」という研究テーマに取り組み、地震件数の意外な多さや、立ち遅れている災害時通信の現状などを感じる事ができました。修了後もこの分野に尽くしたいと決意し、防災関連の技術やソフトウェアを開発している構造計画研究所を志望して採用をいただき、現在に至っています。

そんなわけで、JAISTに入学するまでは、プログラミングどころか、ろくにコンピュータを扱うこともなかった僕が、こうして

高度なネットワークを開発する仕事に就いていることに、不思議な巡り合わせを感じますね。今でも、プログラムについては勉強不足を感じる事が多々ありますが、先輩や同僚に教わりながら地道に取り組んでいます。産学の垣根なく、社会に役立つ研究成果を追求する当社の姿勢は、JAIST時代と地続きにつながっている部分があつて、自分を成長させてくれる環境のありがたさを実感しているところです。

建築から通信やソフトウェアに専門分野は変わっても、災害に負けない社会作りに貢献したいという僕の目標は変わりません。現在手掛けている次世代ネットワークの完成はもちろん、それ以外にも研究や技術開発を通じて、幅広い知識と技術を吸収し、防災システムとして活躍できるように、励んでいきたいと思っています。

浅沼雅行さん

Asanuma Masayuki

株式会社構造計画研究所
ネットワーク技術部
コアプログラミング室
知識科学研究科
知識システム基礎学専攻博士前期課程
2007年修了 28歳

